

授業科目(ナンバリング)	博物館教育論(CB212) (実践的教育科目)			担当教員	※松下 久子 (実務経験のある教員)		
展開方法	講義	単位数	2 単位	開講年次・時期	2年・前期	必修・選択	選択
授業のねらい							アクティブ・ラーニングの類型
学芸員資格を取得するための必修科目である。博物館における教育の意味と目的を理解し、博物館教育についての方法論を身につける。博物館におけるエデュケーターとして博物館運営に携わることができる学芸員の育成を目的とする。授業の導入において、講義のポイント及び問題提議を示し、授業内で解決方法を見出す。							②
ホスピタリティを構成する能力	学生の授業における到達目標				評価手段・方法	評価比率	
専門力	博物館の教育活動を担う学芸員としての思考力を養い、ワークショップの立案や作品鑑賞シートを作成することができる。				作品鑑賞シート	25 %	
情報収集、分析力	博物館の専門職員である学芸員の教育活動に関心をもち、様々な事例について情報収集をおこない、教育的効果について説明できる。				課題レポート	40 %	
コミュニケーション力	博物館の教育活動に必要とされる協調性を養い、不自由なくコミュニケーションをとることができる。				授業態度と授業への参加度	15 %	
協働・課題解決力							
多様性理解力	博物館教育の手法の多様性を理解し、目的に応じた的確な教育手法を選び、期待される効果について説明することができる。				プレゼンテーション	20 %	
出 席					受験要件		
合 計					100%		
評価基準及び評価手段・方法の補足説明							
評価は、課題レポート40%、作品鑑賞シート25%、プレゼンテーション20%、授業態度と授業への参加度15%の配分で行う。博物館教育の目的や特性について十分に理解できているか、教育の目的に応じた的確な教育手法を企画することができるかを評価基準とする。							
授業の概要							
博物館における教育活動の基本的知識と理論を習得するため、その発達経緯や国内外の博物館の取り組みについて概説する。特に、担当教員が学芸員として博物館における教育活動に携わった経験をふまえ、授業では実践的・具体的な内容に取り組む。授業はパワーポイントを使用した講義形態を主体とするが、受講生自身による作品鑑賞シート等の作成やプレゼンテーションもおこなう。この授業の標準的な1コマあたりの授業外学修時間は、180分とする。							
教科書・参考書							
教科書：特に指定しない。授業時の配布資料。 参考書：小笠原喜康・並木美砂子・矢島國雄『博物館教育論』ぎょうせい(2012) 指定図書：ジョージ・E. ハイン著、鷹野光行翻訳『博物館で学ぶ』同成社(2010)							
授業外における学修及び学生に期待すること							
博物館教育論は、学芸員資格を取得する必修科目であり、現代の博物館学芸員には欠かすことのできない分野である。できるだけ多くの常設展示や企画展を見学したり、ワークショップ等の博物館活動へ参加するなど、積極的に博物館施設に足を運ぶことを期待する。							

回	テーマ	授業の内容	予習・復習
1	博物館教育とは	博物館における教育の意義と目的について説明する	博物館教育とは何かについての復習と博物館教育の歴史の予習
2	博物館教育の歴史	博物館が社会とどのような関わりをもち、今日の博物館教育の概念がどのように形成されてきたのかを概説する	博物館教育の歴史の復習と美術館の教育プログラムに関する予習
3	美術館の教育プログラム	美術館における教育プログラムの特徴について、実例をもとに説明する	美術館の教育プログラムに関する復習と作品鑑賞シートの予習
4	美術作品の鑑賞シート	美術館における教育・学習活動の実際を考え、作品鑑賞シートの作成を試みる	美術作品鑑賞シートの復習と博物館教育プログラムの予習
5	博物館の教育プログラム	博物館における教育プログラムの特徴と実例について説明する	博物館教育プログラムの復習と子ども向け教育プログラムの予習
6	子ども向け教育プログラム	子どもを対象とした博物館教育プログラムの理念と手法について、実例を元に解説する	子ども向け教育の復習と大人向け教育の予習
7	大人向け教育プログラム	大人向けプログラムの目的と手法について、実例を元に解説する	大人向け教育の復習と教材開発の予習
8	ワークショップ (1)	博物館における教育プログラムと学習活動の実際を考え、教材開発を試みる	教材開発に関する復習と予習
9	ワークショップ (2)	博物館における教育プログラムと学習活動の実際を考え、教材開発を試みる	教材開発に関する復習と効果的な教育法の予習
10	プレゼンテーション (1)	ワークショップ(1)(2)を通して各自が考えた効果的な教育法や教材についてプレゼンテーションし、意見交換をおこなう	効果的な教育法についての復習と学校と博物館教育の予習
11	学校と博物館教育	学校教育と博物館教育との違いをふまえ、博物館における学習体験の意義や、博物館と学校の連携について概説する	学校と博物館教育に関する復習と地域社会と博物館教育についての予習
12	地域社会と博物館教育	地域社会における博物館教育の意義と役割について考える	地域社会と博物館教育についての復習と、教材開発についての予習
13	ワークショップ (3)	博物館における教育プログラムと学習活動の実際を考え、教材開発を試みる	教材開発に関する復習と効果的な教育法の予習
14	プレゼンテーション (2)	ワークショップ(3)を通して各自が考えた効果的な教育法や教材についてプレゼンテーションし、意見交換をおこなう	効果的な教育法の復習と博物館教育の意義と課題についての予習
15	まとめ	これまで学んだ博物館教育の理念や事例、課題について概観し、教育担当学芸員の使命について総括する	博物館教育の意義と課題についての復習